

浜松市 教頭会 会報

第46号

発行
編集

令和 3年 7月26日
浜松市教頭会 会報委員会

誇りを持って働く～改革のチャンス～

浜松市立八幡中学校 守屋謙一郎

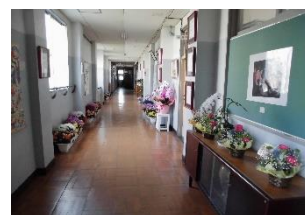
本年度、浜松市中学校教頭会会長を仰せつかりました守屋謙一郎です。御支援と御協力を賜りながら精一杯務めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの影響で、昨年度は学校が休校となる前例のない状況がありました。今年度はマスク無しの生活を期待しましたが、休校こそないものの、長期に渡ってコロナ対策に気を抜けない日々が続いております。全職員を気遣うと同様に、ぜひ、御自身のお体も大切になさってください。

本年度、中学校でも新学習指導要領が完全実施となり、これからの時代「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学び、協働的な学びの実現(中央教育審議会:R3.1)」や、キャリア教育、GIGA スクール構想などが求められています。そして、引き続き感染予防をしながら、授業や行事の運営や方法を見直しカリキュラムを構築していく必要があります。学校で本当に必要な取り組みとは何か、目標と手段を明確にししながら、先が見えづらい今だからこそチャンスと捉え「変わる10年」から「変える10年」にして、創造的に進めていきたいと思っております。

ただ現実には、教員の労働時間は世界的にも長く(中日新聞:2020.4、教員勤務実態調査:2018.9)、教員希望者が減っている状況があります。そこで、学校における働き方改革の実現や教職の魅力発信して教員を志す人が増加し、教員自身も志気を高め、誇りを持って働くことができる環境作りを進める必要性を感じております。もちろん教頭職においても、生き生きと誇りを持って仕事ができる環境が必要です。教頭職の仕事は、校長の経営方針を具現化していく業務に加え、生徒指導、外部対応、危機管理対応、教職員の人材育成など多岐に渡り、学校を支える要として役割は大きく、心労も大きいと思います。また、教職員の質問や保護者からの連絡にすぐに応えたいと思っても、業務等に追われ思うようにいかないことがあります。この様な中ではありますが、学校運営にかかわりながら、直接的ではなくとも子供たちや教職員の笑顔や成長、そして保護者や地域の方々に少しでも喜ばれることに触れたとき、やりがいや嬉しさを感じる仕事でもあります。

本年度、浜松市教頭会は働き方改革を進め、教頭の資質向上を高められる研修の在り方を探るとともに、教頭会の組織・運営面の改善を進めていきたいと思っております。教頭会が、研鑽の場となり、未来創りに繋がる組織として基盤を築いていくことを願っております。教頭会の皆さんのお力を結集し、孤立することなく、確実な一步を踏み出していきたいと思います。よろしくお願いいたします。





各委員会より

I 法制研究委員会 委員長 青島 秀典（雄踏小学校）



日々の教頭業務には、時として対応方法が分からなかったり、判断に迷ったりするものがあるのではないのでしょうか。そのような時に、妥当な対応や判断をするためには、「法令」「条例」「規則」等が基準や道標となります。それら「法令」「条例」「規則」等を確認し、照らし合わせるために参考とする資料の中でもとりわけ活用頻度が高いのが、「法制研究（教頭Q&A、テーマ研究、改正法令）」冊子と「浜松市教頭会重要文書」ファイルではないのでしょうか。

法制研究委員会では、学校教育の法令の研究及び法令の周知を図ることを目的に、「法制研究（教頭Q&A、テーマ研究、改正法令）」冊子の改訂作業を通して、法制に対する研究を進めてまいります。特に、令和3年度については、従来「教頭Q&A」「テーマ研究」「改正法令」の3部で構成された「法制研究」冊子を、「教頭Q&A」と「改正法令」の2部構成へ精選したうえで、これまで専門委員会とは別に検討されてきた「浜松市教頭会重要文書」ファイルの内容についても、本法制研究委員会にて検討を進めていくこととします。併せて、従来「法制研究」の集録冊子として配付してきた資料の配付方法についても、即実現は難しいかもしれませんが、データによる格納という方法も含めて検討していきたいと考えています。

教頭先生方にとって、これまで以上に、「法制研究」冊子と「浜松市教頭会重要文書」ファイルが、日々の業務遂行を進めていくうえでの有効な資料となるよう年間6回の委員会の開催を通して検討を重ねてまいります。

II 人事給与委員会 委員長 足立 成寿（浜名中学校）



人事給与委員会は次の3点を活動の目的とした委員会です。

- 会員の勤務状況・身分待遇及び給与制度の研究をする。
- 勤務条件や待遇改善のための市教委との研修に協力する。
- 研究の成果を日ごろの勤務に生かし、教育現場の条件整備に努める。

これを進めていくために、今年度も「全国公立学校教頭会の調査」に協力をし、その調査結果をもとに活動を進めていきます。この調査は、「副校長・教頭の社会的地位とその職能の向上を目指すとともに、本会の職能研修団体としての政策提言能力を高めるため、会員及び教育現場の現状や実態を的確に把握する」ことを目的に行っており、教頭職の現状・実態把握そして、教育現場の抱える問題点を知るために有効であると考えます。

今年度は、6月14日から7月9日の間でWEB調査に協力をしていただきました。今後は調査集計の考察を行い、報告書を作成します。これを教頭職のみならず、教職員全体の働き方改革にも役立てていければと考えます。そのための一助となれば幸いです。

新任教頭随想

つながりに感謝して

浜松市立横山小学校 二橋 宏之



4月から横山小学校の教頭を拝命し、10年ぶりに横山小学校に勤務することになりました。3月までの3年間は行政にいましたので、空白の時間を埋めるために日々奮闘しています。でも、思い出のたくさん詰まったこの学校に再び戻ることができ、とても嬉しく思っています。

教頭として学校現場に戻った私ですがこの3か月間で本当にありがたく思われることがあります。それは、前職場（天竜区役所まちづくり推進課）はもちろんのこと、教員として、地域住民として、友達として、親としてなど、実にさまざまな立場でお世話になった方々とのつながりです。

「自分のもっているネットワークだけでなく、他の人のもっているネットワークも使わせてもらえるといいよね。」これは磐周地区在籍時の先輩からいただいた言葉です。つながりが新しい可能性を広げ、困難を乗り越える手がかりになることを教えてくださったのですが、この言葉は「常に謙虚に誠意をもって人と接しなければいけない。」という文脈の中で語られていました。

さて、令和2年度からスタートしたキャリア教育は、第3次浜松市教育総合計画後期計画の人づくりの核であるということで浦島太郎の私は目下勉強中です。まだ浅い勉強の中ではありますが「自分のもっているネットワークだけでなく、ほかの人のもっているネットワークを利用する」ことで、人とのつながりに感謝し、つながりを強みにして子供たちのために自分（教頭）の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現させることであると考えればこれもキャリア教育のひとつの目指すところなのかなと思います。また、教師としてのキャリアを武士道ならぬ教師道だとするならば、「謙虚に、誠意をもって人と接する」はその道を歩む上での絶対条件だったのだと、当たり前なことなのかもしれませんが今、強く思います。

新型コロナウイルス感染症をはじめとした様々な諸問題乗り越え、よりよい方向に学校が進んでいくように、これまでの出会い、つながりに感謝するとともに、これからの出会いを大切にしながら、教頭としての自覚と覚悟をもって努力したいと思います。



船明ダムを渡り、天竜川に沿って国道362号線を北上すると左手に旧国有鉄道まぼろしの佐久間線の橋脚を利用して造られた夢の架け橋が見えてきます。よく晴れた朝、霧が立ち込める中、鏡のような天竜川の水面に映し出される山々、澄み渡る青空を見ると体中に力が充填されるような気持ちになります。

10年ぶりの通勤路



あなたは、誰かのために何ができますか？

浜松市立東陽中学校 廣岡誠司



4月から教頭職を拝命しました。以前、先輩の先生から、「それぞれの立場にならないと見えない景色がある」というお話をうかがった記憶があります。この立場になって初めて見える景色があることを、この2か月余りで実感しているところです。もちろん、まだまだ見えていない部分が多くあると思いますが、これからの経験を通して、より広く、より深く、より先まで見通して、学校の助けになれるよう力を尽くしてまいりたいと思っています。

本年度は、ありがたいことに中学1年生の美術の授業を担当させていただいており、生徒と一緒に楽しく学んでいるところです。子供とふれあうことができる授業の時間は、私にとってオアシスのような存在です。中学1年生の最初の授業では、「13歳の私」という題材を扱っています。この題材では、「自分とは何者なのか」を考えながらこれを表現するために自画像を描きます。中学1年生にとっては、少し難しい内容ですが、美術についての基礎を学ばせると同時に、中学生になった自分やこれからの自分をしっかりと見つめ、考えていくことができるように、入学直後にこの題材に取り組ませているのです。

先日の授業では、生徒にワークシートを記入させながら、表現主題を明確にしていく作業をさせました。自分の現在・過去・未来について、今、考えていること、覚えていることを各々がワークシートに記述していきます。この文章を書こうとした時に、そのワークシートの中にある1つの質問が、思い出されました。「あなたは、誰かのために何ができますか？」この質問は、単純に自分ができること（とできないこと）を挙げさせて、自分の能力を再確認させるものではありません。社会の中で、自分がどのように役に立てるのか、つまり、社会の中に自分の存在価値を見出すことができるのかを問うています。中学3年生で扱う「15歳の私（自画像）」でも、生徒にまったく同じ質問をします。1年生の時に書いたことと比べ、成長した自分を実感できる生徒が多く見られるのは喜ばしいことです。

さて、この質問を今の自分にもしてみます。果たして今の私は、何ができている（またはできていない）のでしょうか。教頭として果たすべきことは多くあると思いますが、その中でも最も私が意識していることは、「学校を守る」ということに尽きると考えています。教頭が担っている仕事のほとんどが、この言葉に集約されるのではないのでしょうか。生徒が安心して学校生活を送ることができる環境をつくり上げること。職員の安全、安心な生活を支えること。地域や関係諸機関と学校をつなぐ架け橋となり、充実した教育活動が実施できる体制を整えること。問題行動への対応指揮や調整、その他緊急対応、苦情処理等々、日常的に行っているこれらすべてのことが、「学校を守る」ということにつながっているように思います。これらの仕事は、学校教育のベースとなる部分であり、そのベースを守ることこそが教頭に与えられた使命だと感じています。まずは、このベースの部分をしっかり守れるようになりたいと考えています。その上で校長のもつ経営方針の具現化に力を尽くし、未来を生きる子供たちがよりよい未来を築いていくために必要な資質・能力を身に付けさせていきたい。そんな学校をつくり上げたいと思っています。



新任教頭として大切にしていること



浜松市立篠原中学校 瀧下 早苗

篠原中学校に赴任して3年目の春。新たに教頭という立場で4月を迎えることとなりました。今までは隣で「教頭先生って大変だな」と他人事でした。

今までは自分の自由に行動し、発言してただけに、立場が変わり、今までとは全く違う仕事内容に何をしてもよいのか戸惑うばかりの2か月でした。しかし、昨年までも篠原中に勤めており学校のことを分かっている分、他校の新任教頭よりは戸惑いも少ないのかと前向きにとらえ、なんとかやってきています。

そんな中で、私が心掛けていることは2つあります。

1つ目は、校長先生の思いを具現化することです。この2か月間は特に校長先生がいつも言っている「美しい心は美しい環境から」を進めています。私は、自分が担任の時から教室はいつもきれいにしていました。今は、学校全部が自分の教室だと思い、先生方や生徒が日ごろ使う場所を清掃、整備をしています。校舎は古いですが、その中で美しい環境を作り、みんなが気持ちよく過ごせる場所を作っていきたいと思っています。

2つ目はつながりです。教頭になって2か月。いろいろな人の支えがあって学校が成り立っていることに気付かされています。篠原地区は健全育成会もきちんとした組織で活動しており、一人一人の仕事は大変なはずなのにみなさん楽しそうに話をしてくださる姿が印象的です。この篠原という地域のために熱心に活動してくださっている人たちがいて、子供たちは地域に育てられていることを感じています。地域の方との窓口は教頭である自分の仕事です。学校のために尽力してくださっている地域の方とのつながりを大切にして篠原の子供たちを育てていきたいと思っています。そして、子供たちのために授業や学級経営、部活動に熱心に取り組んでくださっている先生方が元気に過ごせるよう、先生方とのつながりを意識しコミュニケーションをとることを心掛けています。先生方が安心して過ごせる職員室を作っていきたいと思っています。さらに、私には、2年間篠原中で過ごしてきた時間があるので、生徒のこともある程度は理解をしています。そういう強みを生かしていろいろと抱えている子供達ともつながりをもちながら、先生方を支えていきたいと思っています。

「明るく元気」これが私の取柄です。職員が元気に、子供たちが元気に、地域が元気に、そんな学校づくりを支えていける教頭になれるよう、私自身もいろいろな人に支えられながらも、自分のできることを、自分らしく進めていきたいと思っています。

